

第2回 金沢大学子どもどころサミット

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/31511

『学会開催報告』

第2回 金沢大学子どものこころサミット
Kanazawa University Summit of Child Mind
Research Groups

子どものこころの発達研究センター
東 田 陽 博

平成24年3月16日(金), 17日(土), 18日(日), 金沢大学病院宝ホール(金土曜)及び金沢21世紀美術館(日曜)において, 第2回金沢大学子どものこころサミットが開かれました。

平成23年10月に, 文部科学省脳科学研究戦略推進プログラムの一環として, 金沢大学を代表研究機関に, 「神経内分泌仮説に基づく知能障害を有する自閉症スペクトラム障害の診断と治療の展開研究」(代表研究者・東田教授)が採択され, また, 平成24年度からは子どものこころの発達研究センターが, 過去4年半の時限付事業から, 運営交付金による金沢大学の持続的研究組織に移行することに決定しました。このような動きから第2回は意義深いサミットになりました。もちろん第一回にも参加した, ほくりく健康創造クラスター事業, 金沢大学子どものこころの発達研究センター, 連合大学院小児発達学研究所金沢校, 金沢大学JST研究プロジェクト, 金沢大学JSPS研究プログラム等の共催でした。

このような取り組みは, 子どものこころをめぐる諸困難の解明をめざす本学の着実なあゆみを示しています。

このサミットの特徴は, 先端・市民・学際 の3つでした。
(1) 脳磁計(MEG)の計測部分を小児用に改造した事や, 頭部の動きを補正するための装置を開発した事などが報告されました。それにより定型発達児の脳の活動計測の精度が飛躍的に上昇し, 脳機能計測による発達障害診断技術開発に一步近づきました。(2) オキシトシンのカナ型自閉症者への服用の臨床試験が本格的にスタートした事が報告されました。また, 東北大学, 産業医科大学, 自治医科大学, 岡山大学からの講師によるオキシトシンのうつ, 食欲等への作用とともに, 脳のどの部位が関与しているかのオキシトシン作用機序の最先端研究。(3) それらを市民と共有するための「脳科学プログラムカフェ」, 国際シンポジウム(自閉症の倫理学&自閉症と企業), 虐待と脳・心, 認知行動療法, 哲学・社会学の分野の若手の研究報告など, 子どものこころの諸困難について, 奥深い研究の報告がありました。米国や台湾からの招待者を含めた「自閉症者の美学」と自閉症者の就労:企業からの提言」についての討論もありました。



1日目 三邊教授



2日目 東北大学西森教授



3日目 自閉症脳科学カフェ 東田教授